

美幌高で行われた訓練で、クマにふんした美幌署員(右)を目にし、後ずさりする生徒。当初、集団だった生徒はばらばらに散った―9月27日



【美幌、津別】高校の敷地内にクマが出没した一との想定で対処法を学ぶ訓練が美幌高と津別高で開かれた。大人数が集まった状況でのクマ出没を想定した訓練は珍しく、実施してみたところ、いずれの高校でも意図通りの展開とはならず、集団行動の難しさが表れた結果となった。

美幌高、津別高で訓練

農業系学科を持つ美幌高には牛舎や農作物がありクマ出没の可能性もあることから、9月27日に初めて実施し、全校生徒177人が参加した。津別高での訓練は10月18日に行われ、全校生徒約60人が参加。いずれも美幌署、地元各消防署、北海道猟友会支部が協力した。

両校ともグラウンドに生徒が集まっている時にクマが出没したとの想定。クマのマスクをかぶった美幌署員2人がゆっくりと集団に近づき、生徒は避難するが、教諭1人が負傷し救急車で搬送される―

学校でのクマ対応 難しい集団行動

次第にばらばら、走る生徒も

との筋書きで進めた。

生徒には事前に①クマを刺激しないようゆっくり動く②背中を見せずに後ずさりする③集団は固まって行動する―との注意喚起があったが、実際に訓練を進めると、集団は次第にばらばらに広がったほか、後ろを向いたり、走り出したりする生徒が大勢いた。

訓練後、同署地域交通課の村上僚課長は生徒たちに、想定通りに動いていなかったことを伝え「集団が散ると被害が分かりづらくなる。最悪の場合、行方不明になる恐れがある」と説明。「意図した通りの避難にはならなかったが、逆に集団行動の難しさを分かってもらえたのではないかと総括した。両校とも「来年以降も訓練を続け、練度を上げていきたい」と話していた。

(青山秀行)